

第46回全国漆器展入賞作品一覧

講評：審査員長 大西長利(東京芸術大学名誉教授)

『美術・工芸品部門』



農林水産大臣賞

[松フチ麻布張り丸テーブル]

小橋 敬一 (越前)

松材は日本を代表する素材であり、誰もが親しみと懐かしさをおぼえる素材である。その松を使い、ロク口技術を全面に活用し、素朴さ、手ざわりのあたたかさ、たしかな安心感をかもし出した作品である。木肌に染み込ませた生漆の深みのある色調と風合は現代人の心が渴望しているものといえる。

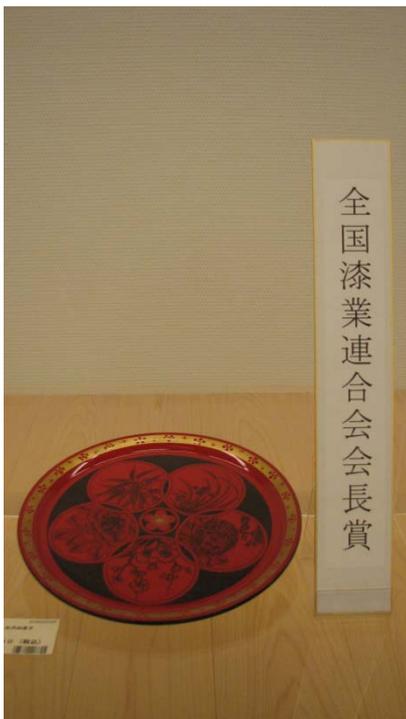


林野庁長官賞

[大皿]

中門 博 (輪島)

この作品の魅力はなんといっても黒漆の中に浮かびあがっている朱漆の流動感あふれた筆致にあります。時間をかけて積み重ねる仕事ではない。瞬間の筆さばきが勝負だから、作者の呼吸が直に感じることでできる優れた作品である。漆にもこういう技術と感性が活性させる努力が一つの課題である。

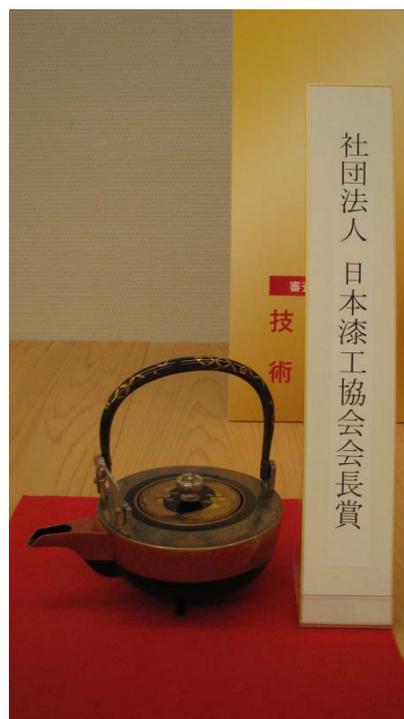


全国漆業連合会会長賞

[朱8寸端反盆、牡丹四君子]

佐々木 貢 (越前)

色漆の塗り分けによって微妙な色彩効果を生み出しているところが魅力となっている。おもてなしに使ってみたいくなる作品である。そこには線彫りによって四君子の表現が的確であり、技術を賞味する話題を提供してくれる作品である。



社団法人日本漆工協会会長賞

[吉祥蒔絵 銚子]

岡 能久 (金沢)

この作品は、なんといっても加賀蒔絵の伝統をしっかりと継承していて、しかも全体として新鮮な表現構成にまとめているところである。伝統の技あつての魅力で、現代感覚と表現力によって新たな可能性ありを見事に示している。



日本経済新聞社賞

[ドレッサー(彩風/さいふう)]

森 康一 (香川)

黒漆のオシャレな魅力を前面に押し出し、銀蒔絵による直線とのコンビネーションがたいへん爽快感を生み出している。用途上の機能性への配慮もいきとどいている。室内の装飾効果と実用を兼ねた優品といえる。



一般財団法人伝統的工芸品産業振興会代表理事賞

[脱乾漆盛器(蝶)]

山本 勝 (越前)

この作品の魅力は両サイドに表現されている蝶の卵殻蒔絵の表現にあります。卵殻の白色と金銀螺鈿の素材感が卓越した技術によって融和していることである。伝統の感性と技術は大いなる可能性を示している。

『日用品部門』



経済産業大臣賞

[KOTON black V、(Y)、(U)]

我戸 正幸 (山中)

ロクロ技術の可能性は無限であり、上古代から追求を重ねてきた領域である。漆器にとっては、たよりになるバックグラウンドであることを重視する必要がある。この作品はまさにロクロの面白さを追求した作品で、フォルムの新しさが魅力である。用途は固定されていないが、多用途の可能性と希望をあたえる作品といえる。



経済産業省商務情報政策局長賞

[「草花文」銘々皿]

助田 敏一 (越前)

この作品の魅力は黒漆の美しさと金銀による蒔絵のすばらしいコンビネーションにありました。使う人のもてなしの心遣いへの配慮が十分なされていて、使い勝手の良さは絶妙でした。銘々皿はやはり漆だと思わせてくれる作品でした。



日本放送協会会長賞

[二段茶筒 茶々]

浅田 明彦 (山中)

茶筒は何とんでも気密性という機能が重要な課題であります。この作品はロクロ技術の応用展開によって、ねじ切り法を取り入れ、機密という課題に挑戦した努力作といえます。さらなる研究を重ねることで、幅広い応用展開に期待したい。



株式会社商工組合中央金庫社長賞

[紐の大丸盆]

上野 和成 (高岡)

紐を素地作りに応用したいいわゆる巻胎素地は、これまで広く用いられてきた技術ですが、作品が大きくなると重量が重くなる点が問題でした。しかし紐の組成や材質等の選別によっては解決不可能ではないと思われます。この作品はその点の解決努力が見られ、紐そのものの漆とのコンビネーションに新鮮さがあり可能性を秘めた作といえます。

